

主 催 益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館

会 期 2019年3月30日(土) - 6月30日(日)

会 場 益子陶芸美術館



平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

Organized by

Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town Mashiko Museum of Ceramic Art

30 March - 30 June, 2019 Mashiko Museum of Ceramic Art

益子国際工芸交流事業 2018 アーティスト・イン・レジデンスin益子 マシュー・ブレークリー カーソン・カルプ ペニー・シンプソン展

編集‧制作/益子陶芸美術館 発行/益子町文化のまちづくり実行委員会 〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

Mashiko Museum Residency Program 2018 Artists in Residence in Mashiko The exhibition of the works by Matthew Blakely, Carson Culp and Penny Simpson

Editing and Design/Mashiko Museum of Ceramic Art Publication/Mashiko-machi, Committee for Promotion of Mashiko Culture Town ©2019 3021, Mashiko, Mashiko-machi, Haga-gun, Tochigi, Japan 321-4217

凡例

・ 本書は2019年3月30日(土)から6月30日(日) まで益子陶芸美術館で開催される「益子国際 工芸交流事業2018/アーティスト・イン・レジ デンス in 益子/マシュー・ブレークリー カーソン・ カルプペニー・シンプソン展」の図録である。

写真:益子陶芸美術館

Photos: Mashiko Museum of Ceramic Art

- ・本書のデザイン・制作は月村真由美が行なった。
- 作品写真は横堀聡が撮影した。
- ・本書の編集は月村真由美・大西昌子、翻訳は 松﨑怜子・大西昌子が担当した。

Editor's Note

- This booklet is an exhibition catalogue for the exhibition "Mashiko Museum Residency Program 2018 Artists in Residence in Mashiko The exhibition of the works by Matthew Blakely, Carson Culp and Penny Simpson" being held at the Mashiko Museum of Ceramic Art from 30 March through 30 June, 2019.
- This catalogue was designed by Mayumi Tsukimura.
- The photographs of works were taken by Satoshi Yokobori.
- This catalogue was edited by Mayumi Tsukimura and Masako Onishi, and translated by Reiko Matsuzaki and Masako Onishi.

目次

Contents

P.3	マシュー・ブレークリー	Matthew Blakely

プロフィール/作品 Profile/Works

交流イベント/素材・技術 Cultural Exchange Events/ Materials and Techniques

P.7 カーソン・カルプ Carson Culp

プロフィール/作品 Profile/Works

交流イベント/素材・技術 Cultural Exchange Events/ Materials and Techniques

P.11 ペニー・シンプソン Penny Simpson

プロフィール/作品 Profile/Works

交流イベント/素材・技術 Cultural Exchange Events/ Materials and Techniques

マシュー・ブレークリー Matthew Blakely

作家のことば

私はイギリス中の特定の場所で採取した原料を使ってすべての作品を作り、原料に本来備わっているやきものとしての性質を見せることで、やきもの・地質・場所の関係を探っています。イギリスには近年の河川堆積物から地球上最古の岩まで、目を見張る種類の岩や鉱物が存在しています。人類が国を治めていく過程で、多くは切り出され、建築や道路建設など、やきもの以外の方法で加工され使われてきました。私の作品は、それらの原料を違った方法で見せるものであり、色や質感は窯焚きによって引き出すことができます。私は、原料そのもの、炎の中で高められる質感、そして原料を採取した場所からインスピレーションを得ています。

幅広い種類の岩や土を使って作陶し、それぞれの個性を最大に引き 出せる焼き方、焼成温度を使い分けています。やきものを原料その ものの本質へと戻していくにつれ、私の作陶へのアプローチはどん どんシンプルなものになっています。自らの手で岩石を砕き、挽き、 調合して釉薬をつくり、土は掘ったままの状態で粘土として使う など、できるだけ原料に手を加えずに使うことを心がけています。

そうして作られた作品は私が暮らすケンブリッジシャーで育った 木材の廃材を使って薪窯で焼かれ、窯焚きによって釉薬が変化し 他の方法では得られない独特のクオリティを生み出します。私の 作品がユニークなものに仕上がるのは、全ての過程があってこそ なのです。 Artist's Statement

Diploma of Ceramics Distinction. National Art School, Sydney, Australia

for a potter for 3 months, Devon, UK

Helped set up a pottery workshop at

Building a workshop and adjoining gallery,

an LPG gas kiln and a bourry box wood fired salt kiln, mid-north coast, Australia

Returned to the UK and set up a workshop, building LPG porcelain and saltglaze kilns, Cambridgeshi<u>re,</u> UK

Postgraduate Certificate of Education (PGCE) Anglia Ruskin University, UK

Arts and Crafts centre, Devon, UK

My work explores the links between ceramics and geology and place, making pieces entirely from geological samples that I have collected from specific locations around the country, and that illustrate the ceramic qualities inherent in these materials. There is an extremely varied geology in the UK with a spectacular range of rocks and minerals ranging from recent river deposits to some of the oldest rocks on the planet. Many of these have been quarried at some stages during the human occupation of the country, though mostly for processes other than ceramics, such as building or making roads. The pieces that I make illustrate another way of looking at these materials and the colours and textures that they are capable of producing in the kiln: inspiration coming from the materials themselves, the qualities that they develop in firings and the places that I have collected them from.

I am working with a wide range of different rocks and clays, using firing types and temperatures that bring out the best in them. Increasingly my approach becomes simpler and simpler, taking ceramics back to its essence. I use these materials as unrefined as possible: rocks are crushed by hand, milled and blended to create the glazes, clays are often used as dug straight from the ground.

This work is fired in my wood kilns using waste wood that has grown where I live in Cambridgeshire. The firing itself transform these glazes producing exceptional qualities that would be impossible to achieve in any other way. That is what makes this work unique.

2018.**4.11** (水) - **5.26** (±)





2018

益子皿土、笠間土、 大谷石ベースの釉薬、

黄土 (新福寺) Mashiko regular clay, Kasama clay, Oya stone based glaze,

Black slip (Ocher clay from the clay pit)



壺 Jar 2018 信楽土+真壁石、 稲田石ベースの釉薬 Shigaraki day (Makabe stone blended), Inada stone based glaze

蓋付壺 Lidded Jar 2018

益子皿土、

大谷石ベースの釉薬、 黄土 (新福寺) Mashiko regular day, Ova stope based glaze

Mashiko regular clay, Oya stone based glaze, Black slip (Ocher clay from the clay pit)



壺 Jar
2018
益子皿土、
芦沼石ベースの釉薬、
羽黒青糠目石ベースの釉薬
Mashiko regular day,
Ashinuma stone based glaze,
Haquro Ao Nukame stone based glaze,



球 Sphere 2018 信楽土+真壁石、 真壁石ベースの釉薬 Shigaraki day (Makabe stone blended), Makabe stone based glaze





球 Sphere 2018 笠間土、 大谷石ベースの釉薬 Kasama day, Oya stone based glaze

アーツ&クラフツセンター陶芸工房 設立を手伝う 1996年 ミッド・ノース・コーストで 工房業ギャラリーを設立 ガス窯・塩窯用の薪窯を作る(オーストラリア) 2002年 ケンブリッジシャーで工房を設立

ロンドン生まれ

1993-94年 3ヶ月間イギリスで陶芸家の助手

サウサンプトン大学 心理学部 卒業

磁器用のガス窯と塩窯を作る アングリア・ラスキン大学院 教育研究科 修了

ナショナルアートスクール陶芸科卒業

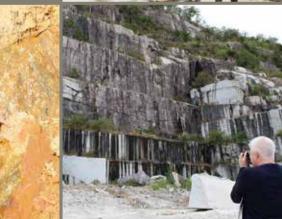
3

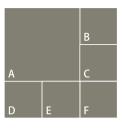
4











益子の原土を掘る(E)

4月12日(木) 場所:益子新福寺

稲田石の採石場を訪ねる(F)

4月17日(火) 場所:石切山脈(笠間市稲田)

場所, 石切山脈 (立间中植)

公開制作(A)

4月20日(金)・25日(水) 14:00-16:00

場所:陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

町長表敬訪問(B)

4月27日(金) 場所:益子町役場

制作実演ワークショップ(C)

5月10日(木) 13:30-15:30 場所:陶芸工房(陶芸メッセ・益子内) 石や土、灰を使った釉薬づくりを実演した。

記念講演会(D)

5月18日(金) 13:30-15:30 場所: 益子国際工芸交流館

素材・技術

Materials and Techniques

マシュー・ブレークリーは普段、イギリス中の特定の場所で採取した原料で作品を作り、やきもの・地質・場所の関係を探っています。

益子では、益子新福寺の赤土、益子皿土、笠間土、信楽土(穴窯緋色土)で形を作り、近辺で採れる芦沼石、大谷石、真壁石、稲田石、羽黒青糠目石を砕いて調合したオリジナルの釉薬で作陶しました。実際に採土場や採石場、石材加工場に足を運び、原料の採れる風景からインスピレーションを得ました。

制作実演ワークショップはこれまでになく専門的な内容で、釉薬のテストピースの作り方を2種類披露しました。



- 1) 並べたプラカップにシリンダーで釉薬の原料を少量ずつ入れ、テストピース用に調合する
- 3) さらに流れや色を確認するためのテストピース
- 4) テストを繰り返してできた釉楽をかけた作品の鯊出し(新乳



カーソン・カルプ Carson Culp

作家のことば

現在私は、1年間リーチ工房でボランティア研修生として学んだ ことに忠実に作品づくりに取り組んでおり、作る形はとてもシンプル で自然なものになってきています。制作過程で自然にあらわれる手 づくりの質感が作品に生命や魂、個性を与えており、それらが手に 取る人の目にも映っていればと思います。キャンバスとなるシンプル な形に描く模様と筆での絵付けを組み合わせ、美しく買い求め やすい価格の日用品を作ることで、つくり手としての務めを全う したいと思っています。私はシンプルなひと筆が描き出す美しさに 魅了され、鉄を使って絵付けをします。一度にたくさんの作品を作る 仕事の仕方は、制作と絵付けの両過程で余分な動きを排除する ことを余儀なくされ、その本質が作品に表れると同時に、私が民藝 の伝統と作風を伝えていく方法でもあります。私の仕事は、色々な 場所を訪れながら様々な作陶法を学び、発展させていくことで続い ていくでしょう。いつの日か、私が培った知識や伝統を次世代の 作家へ伝えていく存在になりたいと思っています。



Attended Portland Community Co**ll**ege, Oregon, USA

My current work echoes the knowledge gained during my one year volunteer apprenticeship at the Leach Pottery. My forms and shapes have become very simple and subtle. The preservation of handmade qualities occur naturally during my making process which give my pots life, soul, and character that hopefully the user can identify. Combining pattern and brushwork with these simple forms I use as canvases now; I hope to fulfill a craftsman's duty by providing beautiful and affordable objects for the everyday use. I am fascinated with the use of iron as a decorative material and how beautiful the result of a simple brush stroke can be. I work in large batches which forces me to eliminate all unnecessary movements with both decorating and making. These qualities are shown in my work and is a way I pass on the mingel tradition and style of making. My practice will continue to be a constant learning experience as I travel and develop different ways of making. I also hope that one day I can pass along my knowledge and traditions I have gained to the next generation of studio potters.





壺 Small Moon Jar 2018 益子皿土、 柿釉、並白釉 Mashiko regular day, Kaki glaze, Clear glaze





水注 Jug 2018 益子皿土、 柿釉, 並白釉, 緑釉 Mashiko regular day. Kaki glaze, Clear glaze Green glaze

大壺 Egg Jar 2018 益子皿土、 柿釉、並白釉、コバルト釉 Mashiko regular clay Kaki glaze, Clear glaze, Cobalt glaze



茶碗 Tea Bowl 2018 益子皿土、 Mashiko regular clav.



柿釉、糠白釉、コバルト釉 Kaki glaze, Nuka glaze, Cobalt glaze



花瓶 Bamboo Vases 2018 益子皿土、柿釉、並白釉 Mashiko regular day, Kaki glaze, Clear glaze

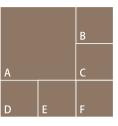




陶芸を学ぶ(アメリカ・オレゴン) 2013-16年 マルトノマ・アーツ・センターにて勤務 2014-16年 マッドシャーク工房にて勤務 2015-16 Apprenticed to Ke**ll**y Pottery, Oregon, USA 2015-16年 ケリーポタリーにて研修生として勤務

2016-17年 リーチ工房にてボランティア研修生として勤務





町長表敬訪問(B)

6月8日(金) 場所: 益子町役場

公開制作(E)

6月19日(火)・7月20日(金) 14:00-16:00 場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

工房での制作(A)

7月1日(日)

場所:陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

制作実演ワークショップ(C)

7月6日(金) 13:30-15:30

場所: 陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

記念講演会(D)

7月12日(木) 13:30-15:30 場所: 益子国際工芸交流館

「健康的なうつわ」をテーマに、リーチ工房で過ごした時間と、 工房での制作の背景にある思想について語った。

濱田窯での釉掛け(F)

7月30日(月)

場所:濱田窯工房

憧れの濱田友緒氏のもと、ロウ抜きと釉掛けを行い、作品は 登り窯で焼成された。

素材•技術

Materials and Techniques

カーソン・カルプは、高校の授業で陶芸に出会い、アメリカ国内で経験を積んだ後、2016~17年に1年間イギリス・セントアイヴスのリーチ工房でボランティア研修生として勤務しました。

益子では、益子の皿土と新福寺の赤土で形を作り、益子の伝統釉(柿釉、黒釉、並白釉、糠白釉)と自作の緑釉・青釉で作陶しました。筆絵や流し掛け、ロウ抜きなどの伝統技法と合わせてスポイトを用い、独自のパターン模様を模索しました。

交流イベントでは、リーチ工房のスタンダードウェアを制作実演したほか、 町内の中学生に向けて平皿の筆絵付けワークショップも開催しました。



- 1)作家が制作した平皿に中学生が鉄絵を施した作品
- 2) 公開制作や制作実演ワークショップでは、リーチ工房で鍛えたハンドル技術を披露した
- 3)様々な技法を組み合わせて釉掛けした作品
- 4) 益子の伝統釉の中で、特に陶芸を始めた頃から憧れ続けてきた柿釉の表現を探った

ペニー・シンプソン Penny Simpson

器作りに真剣に興味を持つようになったのは1976年、英語教師とし て日本にやってきてからのことです。日本の美味しい食事と供し方ー 手作りの器に盛り付けられることもしばしばありますーが大好きに なりました。食器の種類の多さと、家庭やレストランにおける用途の 広さは、私にとても刺激を与えてくれました。手作りの器がイギリス でもっと使われるようになり、ふさわしい器が食事を目にも舌にも美 味しくしてくれるのだと示すことが、陶芸家である私にとっての目標 の一つです。

ここデヴォンで作る器というのはイギリスでの食事のしかたに合わ せたものです。つまり私が作るのは、オーブンで焼くのに適した器 や、食卓に供するお皿、ディナープレート、大きなサラダボウル、お茶 用の大きなマグカップなど、イギリスでよく使われているものです。 日本に戻るたびに私が魅了されるのは、お箸を使うからこそ生まれ た、料理ごとに異なる小さな器や質感の多様さです。

私がアーザンウェアを好むのは、あたたかみのある土の色と、色泥と わずかな種類のシンプルな釉薬だけでできる装飾の可能性ゆえで す。装飾については、主に自然からインスピレーションを得ていま す。自分が暮らす田園風景の中を歩き、草木の葉を集めます。それら が豊かな装飾の可能性を与えてくれるのです。

Artist's Statement

It was not until I came to Japan as an English teacher in 1976 that I became more seriously interested in making pots. Hoved the delicious food in Japan and the way it was often served on hand-made pots. The variety of tableware and its wide use in homes and restaurants was very inspiring. One of my aims as a potter is to encourage a wider use of hand-made pots in England and show how the right pot can make food look and taste better.

The pots I make here in Devon reflect the English way of eatin So I make pots which are suitable for baking food in the oven and serving dishes, dinner plates, large salad bowls, large mugs for tea etc. which are much used here in the UK. When I come back to Japan, I am always charmed by all the small individual dishes and the variety of textures for domestic ware which are allowed by the use of chopsticks.

I like earthenware because of the warm colour of the clay and the decorative possibilities of using coloured slips with a few nature. I walk in the countryside where I live and collect leaves from trees and plants which provide a wealth of decorative possibilities.





オーブンディッシュ Oven Dish 2018 赤土(新福寺)、白泥、黒釉 Ocher clay, White slip, Black glaze



ざる蕎麦用皿 Soba Plate 2018 益子皿土、黒泥、白泥、飴釉 Mashiko regular day,

Black slip, White slip, Amber alaze



角皿 Square Dish 2018 益子皿土, 白泥, 緑釉 Mashiko regular day. White slip, Green glaze

箸置 Chopstick Rest 2018 赤土(新福寺)、白泥、飴釉 Ocher clay, White slip, Amber glaze



ディナープレート Dinner Plate 2018 益子皿土、白泥、緑釉、飴釉 Mashiko regular clav White slip, Green glaze, Amber glaze





2018. 9. 18 (火) - 11. 2 (金)



ディナープレート Dinner Plate 2018 益子皿土、白泥、緑釉、飴釉 Mashiko regular day. White slip, Green glaze, Amber glaze

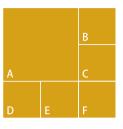












公開制作(E)

9月28日(金)・10月23日(火) 14:00-16:00 場所:陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

ギャラリートーク(D)

10月8日(月・祝) 13:30-15:30 場所: 益子陶芸美術館 展示室

企画展「英国ラブリィ〜派 自然を愛して The Lovelyists - In Harmony with Nature」の会場で、陶芸家になった経緯やイギリス・デヴォン 州の陶芸家の暮らしについて語った。

町長と面会(B)

10月10日(水)

制作実演ワークショップ(A,C)

10月18日(木) 13:30-15:30

場所:陶芸工房(陶芸メッセ・益子内)

型押しや、刷毛目・掻き落とし・イッチンなどスリップを使った うつわの装飾と、タタラとろくろを組み合わせた制作を実演。

道端にある植物を観察する(F)

素材・技術

ペニー・シンプソンは普段、身の回りの自然をモチーフにしたテー ブルウェアを制作しています。貝殻や壁紙、自ら制作した型をうつわの

益子では、新福寺の赤土、皿土で形を作り、益子の伝統釉(並白釉、 能釉)と緑釉、黒釉で作陶しました。益子でも散歩を日課とし、様々な 植物を集めモチーフとしたり、ご飯茶碗をはじめ、和食に合ううつわ作

開催中の企画展「英国ラブリィ〜派 -自然を愛して-」でのギャラリー







